

## 平成 2 3 年度東京都立図書館自己評価に対する意見

第 2 5 期東京都立図書館協議会は、第 6 回定例会（平成 2 4 年 6 月 2 7 日開催）において、東京都立図書館が実施した「平成 2 3 年度東京都立図書館自己評価」に対し、意見を述べた。

各委員からの主な意見は、以下のとおりである。

### 1 自己評価について

- ・ 評価結果を分かりやすくアピールするためにも、評価の解釈や判断を文章だけでなく、A, B, C等の段階で示してもよいのではないか。
- ・ 「3 指標（各種データ）」における「今後の方向性」の矢印の向きが、「4 事業評価」のまとめや「5 今後の展開」に反映されるよう次回以降検討してもらいたい。

### 2 事業別評価について

- (1) 事業 1 ビジネス情報サービス（都立中央図書館）  
事業 2 法律情報サービス（都立中央図書館）  
事業 3 健康・医療情報サービス（都立中央図書館）

- ・ 非来館者に対するサービスとして、現在館内で実施しているセミナーや相談会を館外で行うことは考えられないか。また、参加資格を広げ、都外の方も含めてはどうか。
- ・ ビジネス情報サービスの来館者の満足度は、講演会等参加者の満足度と比べて低い。低い評価をつけた人たちの理由や利用方法などを分析し、改善につなげた方がよい。
- ・ 中央図書館のレファレンスサービスは、1 階にワンストップの総合案内カウンターを設置しているが、それぞれ専門分野・得意分野を持つ職員がバックヤードに控え、利用者の相談内容（分野）によって速やかに対応する職員が代わるという体制が望ましいと考える。

## (2) 事業4 東京マガジンバンク（多摩図書館）

- ・ 創刊号コレクションは非常に重要で今後も充実すべきである。
- ・ 出版の世界では雑誌サービスというと大宅壮一文庫の知名度が高い。今後、サービスを考える上で、大宅壮一文庫を参考にした方がよい。

## (3) 事業5 学校教育活動への支援事業

- ・ 「これならできる！自由研究111枚のアイデアカード集」など学校支援用ツールは、今後、活用事例とセットで渡す仕組みを作るとよい。
- ・ 学校支援用ツールは、公立の学校に限らず外国人学校など幅広く配布すべきではないか。